

マタイ9章16-17節 「新しい皮袋」

1A 新しい働き

1B 古い布切れと革袋

2B 新しくする御霊の働き

2A 繰り返される古い行い

1B 癒しより大切な「罪の赦し」

2B 良きに働く「心にある苦しみ」

1C 状況からの救い

2C 深みにある罪

3A 心貧しき者

本文

マタイによる福音書9章を開いてください。午後礼拝で、9章を一節ずつ読んでいきたいですが、今朝は16-17節に焦点を当てたいと思います。「16 **だれも、真新しい布切れで古い衣に継ぎを当てたりはしません。そんな継ぎ切れは衣を引き裂き、破れがもっとひどくなるからです。17 また、人は新しいぶどう酒を古い皮袋に入れたりはしません。そんなことをすれば皮袋は裂け、ぶどう酒が流れ出て、皮袋もだめになります。新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れます。そうすれば両方とも保てます。**」新しいものを、古いものに取り付けたり、入れたりすると、新しいものをだめにするだけでなく、古いものもだめにしてしまうという例えです。このことは、私たちの普段の生活で、当たり前のように見かけます。パソコンは、実感しますね。例えば、古いウィンドウズ XP に、今年か去年、発売されたプログラムをインストールしたら、そのプログラムが動かないばかりか、ウィンドウズ全体が固まってしまって、どちらもだめにしてしまいます。今のウィンドウズ 10 に入れて初めて、比較的新しいプログラムは機能します。

1A 新しい働き

イエス様は、ガリラヤ地方で、いろいろなユダヤ教の会堂に行き、教え、また福音を宣べ伝えておられました。そして、あらゆる患いにかかっている人々を治されました。病を癒し、悪霊につかれている人々から悪霊を追い出されました。それを見て、群衆は数多くついて行きました。その裏打ちがあって、イエス様は教えられました。つまり、イエス様の語られている言葉には力があり、物事を動かす権威があるということです。

そして、そのお働きはこれまでの秩序やしきたりを大きく超越してしまっているものであり、全く新鮮で、かつてなかったのではないか？と思われるものばかりです。9章には、人々がイエス様の奇蹟に驚いて、恐れて、神をあがめている場面が出てきます。現状をぶっ壊すような、新しい神の働

き、神のご介入であります。

その働きは、人を癒すというような力の現れだけでなく、これまで誰も近づかなかった人々に近づく、恵みの広さにも現れていました。例えばらい病人がいます。らい病人は、それが癒されたら祭司のところに行き、調べてもらうという律法はありましたが、実際に癒されるという約束はそこに書いてありません。けれども、らい病人がイエス様に近づいた時に、彼は自分を清めることができると言って信じました。そして信じられないことを、イエス様はされました。その人に触れたのです。らい病人は、「汚れている！」と叫んで、誰も自分に近づかせないようにしなければいけません。その汚れが移ってしまうからです。そうですね、罪や汚れというものは、人に広がってします。自分が独りで留めておけば害はない、ということでは決してありません。ヘブル書の著者は、「だれも神の恵みから落ちないように、また、苦い根が生え出て悩ませたり、これによって多くの人が汚されたりしないように、気をつけなさい。(12:15)」と言いました。

そして今、イエス様はカペナウムの取税人のマタイを呼ばれました。彼は弟子として生きることになりました。彼の知人や友人たちが、家に集まりました。彼らは、「罪人」と呼ばれていました。ローマの徴税のために、仲間を裏切っていたからです。けれども、イエス様は彼らと食事を共にされたのです。それはちょうど、らい病人に触れたのと同じような状況です。それでパリサイ人たちが弟子たちに非難しました。「こんなラビは偽物だ」と言いたかったのでしょうか。けれども、イエス様の働きは、病人を病人のままにしておくのではなく、それを治す医者と同じであることを語られました。彼らから罪や汚れを受け取るのではなく、むしろご自身の清さを彼らに与える働きをされていたのです。神の恵みを押し流しておられたのです。ですから、汚れから清められるための方法は、唯一、イエス様につながることです。汚れは他の人間に与えることはできますが、清めは他の人間からもらうことはできません。イエス様に祈り、イエス様から聞き、イエス様に触れられることです。

1B 古い布切れと革袋

それで、イエス様がこの地上に来られたということは、全く新しい時代の幕開けとなったのです。これまでのやり方やしきたりが、あまり意味をなさなくなるほどそれが斬新だということです。パプテスマのヨハネの弟子が、他のパリサイ派の弟子と異なって、イエス様の弟子たちは断食をしないので、どうしてですか？と尋ねた時に、お答えになった例えが、この二つでした。

一つは、着物の継ぎをすることです。古い着物に対して、真新しい布切れで継ぎをすれば、着物を引き破って、破れがかえって酷くなってしまう。当時は、布が洗濯によって縮むのを防ぐような、防縮加工は着物に対してしていませんでした。ですから、何度も洗われた着物というのは既に縮んでいます。それ以上は縮みません。しかし真新しい布切れは洗濯すれば縮みます。それで、新しい布切れで継ぎをすれば、その布切れ収縮するので、古い着物を引きちぎってしまいます。そして、次に古い皮袋と新しいぶどう酒の例えです。古い皮袋は、すでに硬直しています。けれど

も、新しいぶどう酒は発酵すると気化するので、古い皮袋が裂けてしまいます。ですから、まだ伸縮することのできる新しい皮袋に、新しいぶどう酒は入れないといけません。もう気化しきってしまっている古いぶどう酒は、古い皮袋に入れても大丈夫です。

2B 新しくする御霊の働き

そうしたことから、私たちが新しい着物、新しい皮袋として、新たにされていなければ、神の新しい御霊の働きを受け入れることができません。従来の方法や以前、働いていたことを思って、主が新しいことを行なわれているのを見るならば、それはパリサイ派のように自分の心の中に批判の思いが出てきます。そして、その批判の思いは、バプテスマのヨハネの弟子にも影響を与えてしまっているように人々に広がっていきます。イエス様は、パリサイ人の教えを「パン種」と弟子たちにお語りになったことがあります。わずかなパン種が粉全体に広がって発酵させるように、他のところに広がっていくからです。そして悪意にまでなっていきます。9章の終わりには、パリサイ人がイエス様の悪霊を追い出す働きを、他の悪霊によって行なっているのだと冒瀆するようなことを言いました。神の働きを、悪霊のしていることだと言いのけてしまうところまで腐ってしまいます。

ですから、私たちは古いパン種を捨てて、新しいパン種のない粉を自分の心に用意しないといけません。私たちキリスト者の生活は、日々、新たにされていく生活です。「たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。(2コリント 4:16)」これまでの神の働きはこうであったのに、なぜこんなことをしているのか？と比べることは、今の神の働きを阻害する最も大きなものとなります。「神の働き」というのは、絶えず新たにされているものだからです。かつて神が働かれていたように、今、働かれるわけではないのです。その昔の神の働きに固執することによって、今の神の働きを大きく妨げ、潰してしまうことさえあります。同じ古い皮袋の中に御霊によって新しく生まれた人は、新しい契約の中でますます新しくされていきます。「主は御霊です。そして、主の御霊がおられるところには自由があります。私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられています。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。(2コリント 3:17-18)」ですから、私たちは問題を自分で直そうとははいけません。むしろ、主が新しいことを行なわれるのですから、主に目を向けるべきです。主を仰ぎ見れば、これまで掛けられていた覆いを取り除かれるのです(2コリント 3:16)。

2A 繰り返される古い行い

私たち人間は、新しくやり直したいと願います。今までは良くなかった、だからまた新たにやり直せばよいと思います。ところが、また同じことを繰り返して、以前として古い体質のままにいることに気づくことが多いです。どうして、新しくやりたいと思っているのに、また同じことを繰り返している自分を発見します。なぜでしょうか？

1B 癒しより大切な「罪の赦し」

それは、問題の捉え方が表面的、あるいは外面的であることが多いからです。9章の初めには、中風を患っている者を四人の男が運んできた話があります。彼を床に寝かせたまま、イエス様のいる家の屋根を打ち破ってその床を運んできました。ところがイエス様が、「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪は赦された。」と言われたのです(マタイ 9:2)。ちょっと待ってください！中風を治してもらいたいから、連れてきたのに！と友人たちは叫んでいたでしょうね。彼も、「えっ？」と驚き怪しんだのではないのでしょうか？けれども、彼自身はもしかしたら知っていたのかもしれませんが。直接なのかどうか分かりませんが、彼の病の原因に罪の問題があったのかもしれませんが。例えば不品行を犯していて、そのために性病にかかり、それがきっかけで中風を患ったということもあり得るかもしれません。けれども、直接的でないにしても、病というものが、アダムの犯した罪から来ていることははっきりしています。

2B 良きに働く「心にある苦しみ」

1C 状況からの救い

同じ問題を繰り返していると言え、士師の時代のことを思い出します。彼らは、ずっと同じことを繰り返していました。自分たちが入っていた約束の地で、カナン人を追い払わなければいけないのに、彼に苦役を課しただけでした。そして、いつの間にか彼らの異教の慣わしを、イスラエル人自身も受け入れ始めたのです。彼らはずいぶん、その地域の主な神であるバアルに仕えて、主の前に悪を行ないました。そこで主は、その周囲の住民がかえって彼らを支配し、彼らを虐げるままにされたのです。なぜなら、そのことをもって彼らが悔い改めて、主に立ち返ってくれることを願っています。確かに彼らは苦しみの中で主を呼び求めました。それで主は、その状況から救ってくれる人、士師を遣わしました。士師は、イスラエル人を虐げている者たちから彼らを救い出しました。ところが、その士師が死ぬと、再び悪を行ない、偶像に仕えるようになってしまうのです。

それは、彼らがいつも状況からの救いを求めていたからです。その苦しみから主を呼び求めたのですが、自分たちの犯している悪について悔いているわけではありませんでした。その状況をよくしてくれた指導者、士師がいる時には、士師の信じている神を信じ、仕えていましたが、いなくなれば、自分のしたいことを繰り返してしまうのです。真実に、新しく生きようとしていないのです。

2C 深みにある罪

士師の時代はかなり長いこと続きました。紀元前 14 世紀からその問題が始まり、ついに終わってきたのは紀元前 10 世紀頃です。実に 400 年ぐらいの時を経て、ようやく自分たちの置かれている境遇を、大きな視野から見つけることができました。サムエルが預言者として神によって立てられました。彼が、神の言葉を語ることによって、次第に人々の心がじわじわと溶かされていました。一度、ペリシテ人との戦いで、最前線に神の箱を持って行きました。そうすれば、戦況が好転するのではないかと思ったのです。ところが、その逆で神の箱は奪われるは、自分たちは敗退しなけ

ればいけないは、で、てんてこ舞いだったのです。そしてペリシテ人の町で、神の箱のあるところには災いが下ったので、彼らは牛の車に引かせて、神の箱を手放しました。すると、イスラエルのところに牛の車が来るではありませんか！みなが喜びました。ところが、悲劇が起こりました。民のうち 70 人が打たれて死んだのです。神の箱の中を覗いたからです。

このように、状況を新しく変えようとしたところで、良くなることはありません。ところが、サムエルが預言者として立たせられ、彼が預言活動を活発にしている中で、人々の中に神への渇きが起こりました。二十年も、同じ祭司の家に神の箱が安置されていて、そのままになっていました。けれども、じわじわと自分たちの中にある偶像に築いたのです。ペリシテ人から虐げられているのですが、自分たち自身の中に偶像を秘かに手にしていたのです。それで、サムエルがイスラエル全家に呼びかけました。「あなたがたの間から異国の神々やアシュタロテを取り除きなさい。そして心を主に向け、主にのみ仕えなさい。そうすれば、主はあなたがたをペリシテ人の手から救い出してくださいませ。(1サムエル 7:3)」そして、イスラエル人はバアルやアシュタロテの神々を取り除き、主にのみ仕えたのです。

つまり、表面的な救いを求めている中で、自分が新たにされていないことに気づき、もっと奥深いところにある罪の問題に目を留める勇気が与えられました。御言葉を何度も聞いていく中で、心にある罪の問題が見えてきました。それで、取り組むことができたのです。主に仕えていても、他の偶像にも心の中で仕えているかもしれない。しかし、それがまさか罪だったとは気づいていなかった。他のイスラエル人のように、私たちも自分の中にある偶像や罪に気づくのに時間がかかるかもしれません。けれども、状況を変えようとするのではなく、むしろ主に対する飢え渇きのおかげでした。そして、周りを変えようとしたのではなく、自分自身が主を見上げたことによって変えられました。先ほど、引用した第二コリント 3 章にある御言葉のとおり、主に立ち返り、主を見上げれば、覆いを取り除かれます。

ですから、士師の時代において、イスラエルが状況を変えてほしいと思っても、内側の罪の問題を解決しなければ、繰り返しになってしまうこととお話ししました。偶像礼拝のような明らかな罪だけでなく、実は「正しい者」とされていたあのヨブでさえが、自分の深い部分における罪を悟るために時間がかかりました。彼は友人との論争の中で自分が無罪であることをずっと訴えました。神がついに、嵐の中に現れました。そして、天地がどのように造られたのか、また動物がどうしてこのような行動を取っているのか？神が問い詰めました。そしてヨブは答えているのです。「ああ、私は取るに足りない者です。あなたに何と口答えができるでしょう。私はただ口に手を当てるばかりです。(40:4)」しかし、この言葉を見捨てるかのように、神はさらにヨブを問い詰めるのです。そして制御しがたい生き物レビヤタンについては、どうなのか？問い詰めました。ついにヨブは、このように告白したのです。「42:4-6 あなたは言われます。「さあ、聞け。わたしが語る。わたしがあなたに尋ねる。わたしに示せ」と。私はあなたのことを耳で聞いていました。しかし今、私の目があな

たを見ました。それで、私は自分を蔑み、悔いています。ちりと灰の中で。」ヨブは、悔い改めるように見える言葉を発したのですが、それはただ言わないと決めただけで、真実な悔い改めではありませんでした。彼の問題は、神のことは聞いていたが、神ご自身を見ていなかったということです。主なる神に目を上げて、この方を見れば、自分の中にある、奥深いところにある罪に気づくことができるはずで

3A 心貧しき者

そしてこのような、深い部分での悔恨が生まれれば、私たちの心に御霊によって新しい思いが与えられます。そして、事実、変えられた者となります。このことを、イエス様は山上の垂訓で、「心の貧しい者」と言われています。霊において、全く自分では何も変えることはできないと悟るところまで、空っぽにされることです。他のだれのせいにするのではなく、主ご自身と取り組むならば、自分が心貧しい者であることに気づきます。自分が空になって初めて、新しい神の働きに満たされることができます。自分というものがあれば、新たになったつもりでいて、まだ古いものの繰り返しです。しかし、私たちはそんなことのためにクリスチャンになったのではありません。新しく造られたのであれば、新しく造られたのです。古いものは過ぎ去ったのです。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。(2コリント 5:17)」全く新しい働きなのです。また御霊によって、日々新たにされる働きなのです。古いものは過ぎ去ったのです。主の新しい働きを、私たちは絶えず主に目を向けることによって、新しくされた器の中に収めます。そしてその恵みが押し流されるようになります。